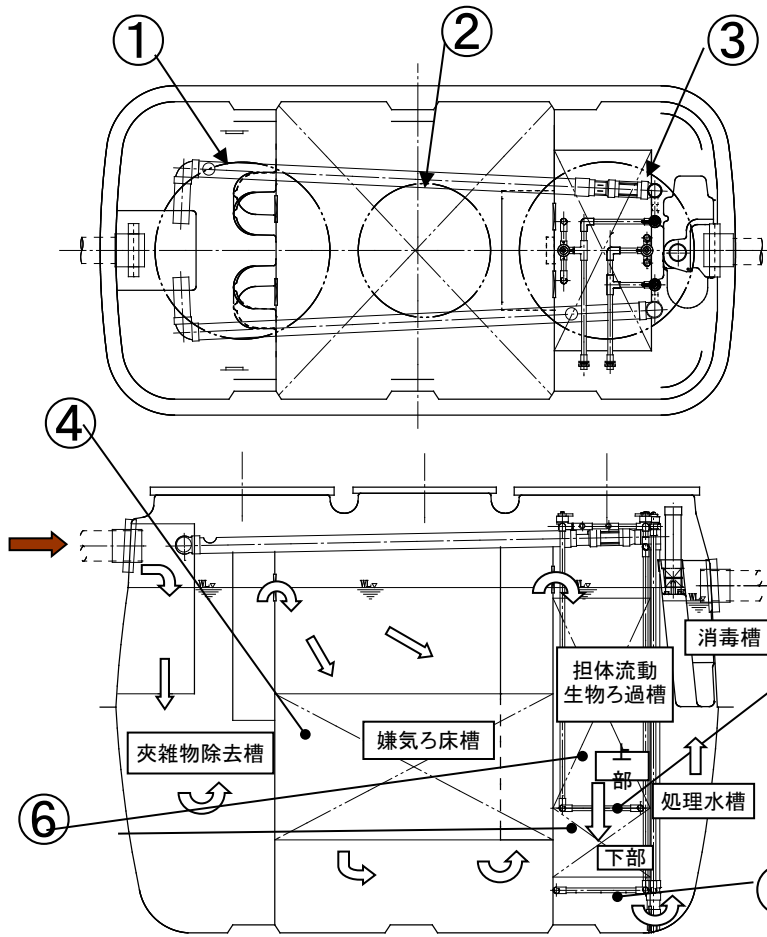
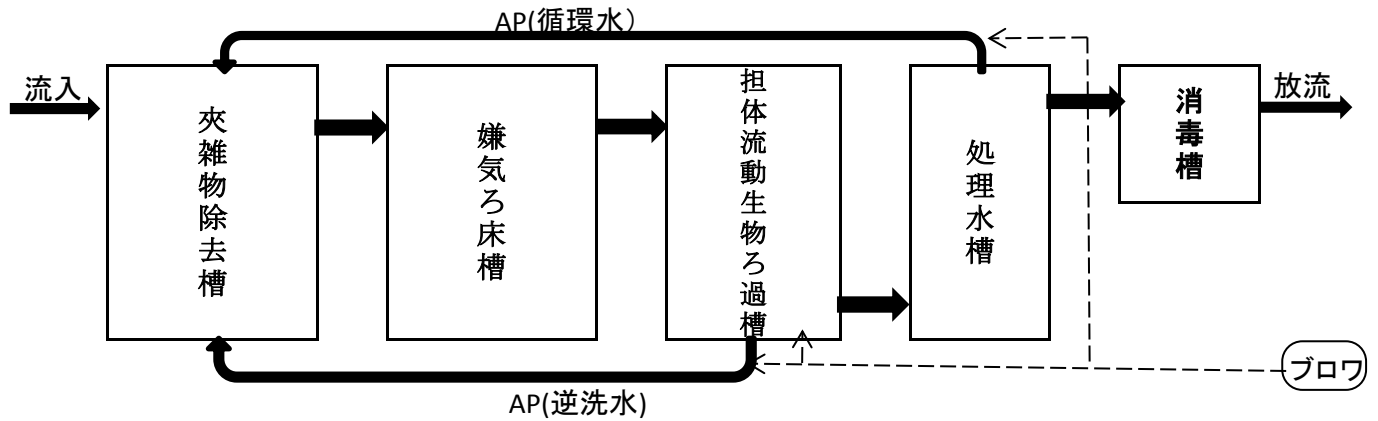


CS フジクリーン工業(株) OEM: F-HC (株)クボタ :MAS 松下電工(株) VC 前澤化成工業(株) 共同開発: なし 処理方式: 担体流動生物ろ過方式 5・7・10人槽	BOD除去型		全浄協登録値		
	BOD	SS	T-N		
	20mg/L以下	—	—		
	性能評定または性能評価値				
	BOD	SS	T-N		
	20mg/L以下	—	—		



- ① 夾雑物除去槽
- ② 嫌気ろ床槽
- ③ 担体流動生物ろ過槽
- ④ 骨格様球状ろ材
- ⑤ 散気管
- ⑥ 担体
- ⑦ 逆洗管

有効容量 (m ³)		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	夾雑物除去槽	0.493	0.695	0.976
	嫌気ろ床槽	0.990	1.405	1.992
	担体流動生物ろ過槽	0.302	0.372	0.501
	処理水槽	0.263	0.342	0.468
	消毒槽		0.015	0.021
	合計	2.063	2.829	3.958

槽底部からろ材受け面までの距離(mm)	嫌気ろ床槽	350
---------------------	-------	-----

循環装置	循環装置バルブ目盛(%)			逆洗装置	逆洗水移送バルブ目盛(%)			逆洗バルブ目盛(%)	散気バルブ目盛(%)
	5人	7人	10人		5人	7人	10人		
有	40~45	35~40		有	50~55	40~45		50	50

人槽	ブロウ風量(ℓ/分)	逆洗風量(ℓ/分)	エアリフト用(ℓ/分)	逆洗時間(分)	逆洗時刻	逆洗回数(回)	逆洗周期
5・7・10	40	80	-	5	2:00 3:00	2	1日

[人槽に対する循環、逆洗移送水量の設定範囲]

人槽	5	7	10
循環水量(ℓ/分)	1.4~2.1	1.9~2.9	2.8~4.2
逆洗水量(ℓ/分)	6~9	8~11	10~15

・循環移送水量・逆洗移送水量は、(1)使用水量(日平均汚水量) (2)実使用人員、(3)人槽 の優先順位で判断して上記の範囲になるように調整してください。

特 徴

夾雑物除去槽 流入水に含まれる大型の固形物、油脂等が分離され、貯留される。

嫌気ろ床槽 骨格様球状ろ材が充填され汚水が下向きに流れる過程で固形物を分離、貯留する。

担体流動生物ろ過槽 担体押さえと担体架台の間に、中空円筒状担体が充填されており散気管より上部では担体が流動しBOD除去が進行、散気管より下部(ろ過部)では充填担体が静止され、SSが捕捉される。

自動逆洗 ろ過部の閉塞を防止するため、タイマー制御により槽底部の逆洗管から送気される。これにより剥離された汚泥はエアリフトポンプにて夾雑物除去槽に移送される。なお、自動逆洗後に散気が切り替わる際、散気風量が30秒間80ℓ/分に増大し散気管の目詰まりを防止する。

ブロウ タイマー操作により通常ばっ気の散気風量を80ℓ/分に増大する事が可能です。

作 業 時 の ポ イ ン ト

保守点検

①自動逆洗のタイマーが状態に合わせて適正に設定されているか確認してください。

②逆洗時の汚泥移送量が適正な量(上表参照)になっているか必ず実測して確認してください。

汚泥移送量が多すぎると担体流動生物ろ過槽内の保持生物量が不足し、処理性能に悪影響を与えますので、注意してください。

③循環水量が適正な量(上表参照)になっているか必ず実測して確認してください。

④通常ばっ気、逆洗ともに状態に著しい偏りがないか確認してください。

清掃

①清掃前に逆洗を行い、担体流動生物ろ過槽の浮遊物や処理水槽のスカム、汚泥は夾雑物除去槽へ移送してください。

②夾雑物除去槽及び、嫌気ろ床槽については全量引き抜いてください。